



ICT活用場面

8年生(中学2年生) 数学
「多角形の内角と外角」
(全6時間扱い)

準備するもの

Windowsタブレット
電子黒板

画面共有ソフト

インターネットの利用

有

ICT活用のメリット

協働での意見整理

ワークシートに解答を各自が書き込み、グループ内の他者の解答を手元のタブレットに同時に表示する。それをもとにお互いの方法を比較・検討をしたり、どの方法が一番合理的かを考えたりすることができ、理解が深まった。

協議の様子

生徒A：僕はここの線を延長して、三角形を作って、内角の和の性質を使って角度を求めたよ。

生徒B：僕はこの頂点から平行線を書いて、錯角や同位角の関係から角度を求めたよ。

生徒A：そんな方法があったんだね。B君の方法と比較すると、僕の方法は少し面倒だね。

生徒B：そんなことないよ。A君の方法もいい方法だよ。

授業の一例(5/6時)

本時のねらい

これまでに習った三角形の内角の和の定理や錯角・同位角等を使って、いろいろな補助線を引くことによって自由な発想で角度を求めることができる。

主な学習活動

- ①本時のめあてを提示する。
- ②三角形の内角の和の定理や平行線の錯角や同位角の性質を確認する。
- ③問題を提示する。
- ④各自で問題を検討し、タブレットに自分の方法(補助線等)を書く。
- ⑤自分の方法を発表する。
- ⑥お互いの方法を検討する。
- ⑦他の方法を模索する。
- ⑧先生からの助言

児童・生徒の声または教師の声

- ・どこに補助線を引いて、どんな方法で角度を求めたかが、大変よくわかった。(生徒の声)
- ・多様な方法を模索、共有できた。(教師の声)